

奈良県における交流人口の拡大と地域創生の課題と展望

代表研究者：下山 朗

共同研究者：小松原 尚・山部 洋幸・村瀬 博昭

1. はじめに

人口減少が続いている奈良県において、交流人口増加に対する期待は大きい。交流人口には、インバウンドを中心とした観光客だけでなく、2地域居住や留学生などの一時的な居住者もその重要性を増しており、県内の南北間を通じた交流も大切である。本稿では、交流人口が地域に与える影響について奈良県の事例から検討分析する。主な検討事項は以下の2点である。1点目として、様々な体験の機会を観光に用いたニューツーリズムの代表例として、自転車ツーリズムを取り上げる。2点目として、伝統的ツーリズムの代表として、寺社仏閣に関する調査を行う。構成は以下のとおりである。まず第2節で奈良県における地域経済、観光、交流人口の現状について概観する。第3節では、1つ目の柱であるニューツーリズムの代表として、自転車ツーリズムについて考察する。第4節では、伝統的ツーリズムの代表として近年人気となっているご朱印めぐりを通じた効果について分析する。第5節では、本稿から明らかになった点の整理と今後の課題を提示していく。

2. 奈良県経済の現状と課題

奈良県は、2000年に総人口がピークを迎え以降は減少局面にある。また、一般的に観光に対するイメージは強く、ブランド総合研究所「地域ブランド調査2018」によると、奈良県の魅力度ランキングの順位は、前年と同じく47都道府県中6位と非常に高い。そのようなイメージがある一方で、奈良県の主要な産業については、あまり知られていない。そこで、就業者数のデータを用いた特化係数から検討していく（表1）¹。

表1 特化係数からみた奈良県の産業構造

業種	(係数)	業種	(係数)
1位 宗教	4.50	11位 郵便局	1.46
2位 木材・木製品製造業(家具を除く)	3.05	12位 地方公務	1.44
3位 ゴム製品製造業	2.66	13位 鉄道業	1.39
4位 繊維工業	2.39	14位 各種商品小売業	1.37
5位 プラスチック製品製造業	2.02	15位 水道業	1.33
6位 なめし革・同製品・毛皮製造業	2.01	16位 医療業	1.33
7位 その他の製造業	1.64	17位 社会保険・社会福祉・介護事業	1.32
8位 学校教育	1.52	18位 保健衛生	1.31
9位 パルプ・紙・紙加工品製造業	1.50	19位 業務用機械器具製造業	1.30
10位 その他の教育、学習支援業	1.47	20位 機械器具小売業	1.29

出所：「経済センサス」平成26年版より作成。

表1は、奈良県の特化係数が高い上位20件について抽出したものである。全98部門のうち最も高い値を示したのは宗教であり、全国平均の4.50倍のシェアを占めている。2位以

¹ 特化係数とは、地域の産業構成比／全国の産業構成比（産業別就業者数で算出）で求めたものであり、特化係数が1より大きい場合、全国と比べてその産業に対するウェイトが大きいことを意味する。

降は、奈良県の伝統的な製造業や都市的な機能を持った産業が並んでいる。次に、奈良県の政策の重要な柱となっている観光関連についてみていく。まず、奈良県への観光入込客数は、2017年では4,420万人であり、過去5年間で873万人の増加となっている。一人あたり消費額を見ると、観光客の大半を占める日帰り観光客は、4,731円、宿泊客は24,484円となっている²。

このような現状において奈良県では「奈良が有する観光資源や歴史・文化資源を活用し、県内への誘客を促進し、観光産業を振興」することを主な政策に上げており、県内宿泊客の増加と質の高いイベントの実施が求められている。そこで、次節以降ではニューツーリズムとしての自転車ツーリズム、伝統的ツーリズムとしての寺社仏閣を通したご朱印めぐりの現状とその影響について考察する。

3. ニューツーリズムと自転車ツーリズム—奈良市の事例も交えながら

ニューツーリズムは、従来の旅行と異なり旅行先での体験やふれあいが重要視された新しいタイプのツーリズムであり、代表例として産業観光やエコツーリズム、ヘルスツーリズムなどが挙げられる。わが国でも2007年「観光立国推進基本計画」のなかで、ニューツーリズムの促進がうたわれている。この流れの中、自転車ツーリズムは、しまなみ海道の事例をはじめインバウンドも含めて様々な成功事例が出てきており、新たな雇用の創出が期待されるツーリズムの一つである³。そこで本節では、自転車ツーリズムの現状と広がりについて概観したのちに、奈良県内での可能性について述べていく⁴。

まず、自転車に関連する社会環境についてみていく。自転車通行空間の整備状況について「自転車専用道路及び車道通行を基本とした形態」をみると、平成26年4月1日現在で、道路延長は総計1,396kmにも及んでいる。これらのうち、自転車専用道路が458km、道路構造令第2条第2項、道路交通法第2条第1項第3号の3に規定される自転車道が145kmに及んでおり、その規模は拡大の一途をたどっている⁵。一方、自転車の所有の現状について、「自転車活用推進計画骨子に対するアンケート調査結果」を見てみると、所有している自転車の種類は、「一般車・シティサイクル」よりも「ロードバイク」所有者の回答数が多く、利用理由についても「走っていて気持ちが良い、ストレス解消」と回答した人が最も多い結果となっている。

では、このような社会背景のもと自転車ツーリズムはどのような展開があるのかについて概観していく。自転車ツーリズムに関する参加型イベントについて、国土交通省自転車活用推進本部が提供している「イベント情報」が全国の事例を取りまとめている。それらについて類型化したものが表2である。

表2より、比較的イベントの少ない冬の時期においても、様々な型式のイベントが開かれていることが分かる。最も多いのはレース型であるものの、地域振興との関係で考える

² 詳細については、奈良県「奈良県観光客動態調査報告書」を参照のこと。

³ 実際に、自転車ツーリズムの先進地であるドイツにおいては、観光分野における貴重な成長分野と位置付けられている。

⁴ 本学の学生が、平成30年度県内大学生が創る奈良の未来事業において、最優秀賞を受賞し、次年度における事業に採択された。そのため、奈良県における実践的取り組みについては、別途まとめていく。

⁵ 詳細については、国土交通省「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン (<http://www.mlit.go.jp/road/road/bicycle/>)」参照のこと。

表2 自転車イベント分類

【レース型】	【サイクリング型】	【ゲーム・スクール型】	【イベント型】
順位・タイムを競うもの	コースの完走を目指すもの	定められたミッションのクリアやスキルを身に付けるもの	自転車に関連する同好者の集まり等のイベント
15件	10件	8件	7件

注：複数のイベントに関係するものについては、それぞれで件数にカウントしている。

出所：国土交通省自転車推進本部「イベント情報」より筆者作成（2019年1月25日閲覧）

と、【サイクリング型】と【ゲーム・スクール型】を合わせた企画になっているものや、【ゲーム・スクール型】と【イベント型】を合わせた企画になっているものもみられる⁶。

このように、今日では自転車のニーズや政策の振興に伴い、様々な形で広がってきている。さらに、イベント分類で見ても、地域振興との合同企画も開催されており、各地域で自転車ツーリズムを利用した地域活性化への期待はさらに大きなものになるといえるだろう。そこで、最後に奈良県における自転車ツーリズムの可能性について触れておく。奈良県では2010年に「奈良県自転車利用促進計画」を出して以来、道路行政が一括して全県的に取組みを進めている。モデルコースとして36あり、1日の最長距離として124.4kmが想定されている。コースの環境は、市街地と山間部のコースが明確に分かれており、寺社等を巡るような観光と一体型のコースとなっているのが特徴である。しかしながらコースを設置しただけであり、そこへの誘致は十分ではない。そのためツアーを企画やイベントを行い、地域住民の積極的な参画なども求めていく必要がある。

4. 伝統的ツーリズムからの検討—寺社仏閣を通じたご朱印めぐりの効果

奈良県を訪れる観光客の訪問目的から見ても、国内外の観光客問わず寺社仏閣を中心とした歴史文化への期待は非常に大きい。このような中、個人旅行を中心とした観光客の中に、ご朱印を求めた旅行者も増加傾向にある。ご朱印は元来寺社を訪れた参拝者が写経を納めた際に奉納事の証として授けられたものであるが、昨今のパワースポットブームの牽引される形でご朱印ももらいに来る人が増加している⁷。そこで、本節では奈良県内におけるご朱印ブームが観光に与えている影響を考察するため、①奈良市内の寺社仏閣でどの程度ご朱印を提供しているのかに関する全数調査、②ご朱印を提供している寺社仏閣を対象とした来訪者数変化に関するアンケート調査の2点を行った。前者の全数調査では、奈良県の神社庁のWEBページ等より寺社名を割り出し、当該寺社に実際に足を運んで調査を行った。後者については、前者の調査によってご朱印を提供しているといった寺社を対象に追加でヒアリング等を行った。対象とした、364件のうちご朱印を提供している件数についてみたものが表3である。

⁶ 具体的な事例として、福岡県遠賀郡岡垣町で行われる「トレジャーハントツーリングIN岡垣」や福岡県久留米市で行われる「サイクルチャレンジくるめ」などが挙げられる。

⁷ 下山ゼミ（2018）「2018年度インターカレッジフォーラム報告集」より、WEBアンケートによるご朱印所持の調査および書籍の販売動向をみると、おおよそ2014年以降にご朱印めぐりを始めた人やご朱印に関連する書籍の急激な増加がみられることが明らかになっている。

表3 奈良市内の寺社におけるご朱印提供

	有	無	調査不可	総数
神社	7 6.7%	37 35.2%	61 58.1%	105
寺	59 22.8%	84 32.4%	116 44.8%	259
合計	66 18.1%	121 33.2%	177 48.6%	364

出所：下山ゼミ調べ。

表3より、神社ではご朱印を提供している箇所は7件（6.7%）しかなく、寺では59件（22.8%）という結果である。このようになった主な理由として2点考えられる。第1に本調査では全数を現地に赴き調査を行ったが、無人であるあるいは当該住所の場所がない等の理由から寺社ともに、調査不可の割合が50%近くにも上っていることが挙げられるだろう。第2に、宗派が挙げられる。一部の宗派では教義上の理由でご朱印を提供していないことから割合は小さくなったと考えられる。

次に、ご朱印を提供している寺社仏閣で、どれぐらい来訪者が増えているかについてみていく。アンケート結果より、おおよそ3年前から増え始め、寺社周りの回遊人数は増えたと回答する割合が6割に上るなど、ご朱印ブームが地域の観光に影響を与えていることがわかった⁸。さらに、来訪者数は、世界遺産となっている有名な寺社を除くと、月当たりの人数は数名から数百名という結果となった。これらを集計するとご朱印めぐりがブームになってから増加した人数は1年間で数万人を超える規模に上ることが明らかとなった。ただし、この割合は奈良市の日帰り観光客数の値と比較するとわずか1%未満であり、ご朱印めぐりが地域経済に与えるインパクトとしては、それほど大きなものとは言えないが、ご朱印を提供している寺社数が少ないことから、提供する寺社数が増えるにしたがってこの値は大きくなることが期待される。

5. おわりに

本稿では、ニューツーリズムとして自転車ツーリズムを、伝統的ツーリズムとして寺社仏閣を通じたご朱印めぐりを対象に分析を行った。交流人口の増加は奈良県にとって大きな期待があるだけでなく、その大きさについても実証的な調査研究が求められており、本稿の結果はその一部分ではあるものの、研究の積み重ねの観点から重要な成果の一つと考えられる。また、交流人口は本稿で取り上げたツーリズムだけでなく、本学や奈良女子大学等の大学の学生やその就職行動もまた、大きな意味がある。本稿の調査過程において、いくつかの先進地の事例研究はすすめているが、整理検討段階であるため、より精緻な研究を進めていく必要があるだろう。

さらに、今日の観光において重要な点は、交流人口の増加だけでなく、その消費活動も大切である。そのために奈良県における地産地消の状況や、観光客の消費動向、地域間の生産構造等もアンケートやヒアリング調査を中心に進めており、これらの正かも今後重要になってくるといえるだろう。

⁸ 詳細については、下山ゼミ(2018)「2018年度インターカレッジフォーラム報告集」を参照のこと。

主要参考文献

- 倉田陽平（2012）「ジオキャッシング：現実世界に埋め込まれたゲームとその観光的要素」『情報処理』53（11），pp.1153-1158.
- 兒玉剣・十代田朗・津々見崇（2015）「我が国における広域的サイクルツーリズム推進の実態に関する研究」『都市計画論文集』vol.50、No.3、pp.1130-1136.
- 下山ゼミ（2018）「2018年度インターカレッジフォーラム報告集」
- 吉田長裕（2015）「自転車利用促進の動き」『自動車交通研究』、pp.60-61.